

展示室1 まなざし、その表情

ここではぜひ、イギリス絵画に描かれた人々のまなざしや表情に注目してご覧ください。

英国絵画の黄金期・18世紀の肖像画や風俗画に描かれた人々の表情には、画家独自の観察眼が光っています。イギリス絵画の父と呼ばれたホガースは、連作版画を通して人々の顔の特徴や表情をユーモラスに描き分けています。ロイヤル・アカデミーの中心的存在であったレイノルズは、荘厳で気品あふれる肖像画で人気を博しました。ゲインズボロが描いた《オース夫人》は、その温かなまなざしと表情から、彼女の優しげな人柄まで想像させます。

一方、19世紀に台頭したラファエル前派の人々は、表情がなく均一化された面貌の、どこか虚ろで神秘的な女性像を繰り返し描きました。干渉を拒むようなその静謐さこそが、私たちを強く惹きつけているのかもしれない。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ウィリアム・ホガース	美の分析Ⅰ	1753	エッチング・紙
ウィリアム・ホガース	美の分析Ⅱ	1753	エッチング、エンブレイヴィング・紙
ウィリアム・ホガース	『当世風結婚』第1場～第6場	1745	エッチング、エンブレイヴィング・紙
ウィリアム・ホガース	性格と戯画	1743	エッチング・紙
ウィリアム・ホガース	サミュエル・マーティンの肖像	1758～60頃	油彩・キャンバス
トマス・ゲインズボロ	オース夫人の肖像	1767	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	キティ・フィッシャーの肖像習作	1760～62頃	油彩・キャンバス
サー・トマス・ローレンス	ラビー・ウィリアムズ牧師	1790年代初頭	油彩・キャンバス
サー・ジョン・エヴァレット・ミレイ	ジェームズ・クラーク・フックの肖像		エッチング・紙
サー・ジョン・エヴァレット・ミレイ	自画像		エッチング・紙
フォード・マドックス・ブラウン	牢獄のヤコポ・フォスカリ	1869	チョーク・紙
ダンテ・ガブリエル・ロセッティ	マドンナ・ピエトラ	1874	パステル・紙
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	フローラ	1868～84	油彩・キャンバス
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	アヴァロンにおけるアーサー王の眠り	1894	グワッシュ・紙
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス
トマス・ガーティン	エクセター大聖堂	1798頃	水彩・紙
ジョン・ラスキン	オーヴェルニュの丘		鉛筆、ホワイトボディカラー・紙
ジョン・セル・コットマン	フェカンのロマネスク遺跡		鉛筆・紙
ジョン・セル・コットマン	ルーアン、ラ・ピュセル広場のプールのルルド館	1823	水彩・紙

展示室2 大正という時代

大正時代は1912年7月から1926年12月まで、わずか15年ほどの期間でした。この短期間において、第一次世界大戦(1914～18年)、米騒動(1918年)、関東大震災(1923年)、治安維持法と普通選挙法の公布(1925年)など、日本のみならず国際的に見ても時代の転換点となるような出来事が続きました。のちに「大正デモクラシー」や「大正浪漫」といった時代を象徴する言葉が生まれ、政治や社会、文化の各方面で民主化が進み、交通の発達やメディアの発展も相まって大衆文化が花開いた時代でもあります。

今年は郡山市市制施行100周年の年になります。ここでは、いまから約100年前、近代と現代の狭間で揺れた大正という時代に生み出された作品をご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
木村 荘八	祖母の顔	1916(大正5)	油彩・板
岸田 劉生	照子像	1920(大正9)	水彩・紙
小出 檣重	自画像	1918(大正7)	油彩・キャンバス

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
中川 紀元	赤い下着	1920(大正9)	油彩・キャンバス	(株)興新産業寄贈
伊原 宇三郎	靴職人	1925～29(大正14～昭和4)頃	油彩・キャンバス	武田光司コレクション寄贈
中澤 弘光	灯(加茂川夕涼)	1914(大正3)	油彩・キャンバス	
曾宮 一念	静物	1918(大正7)	油彩・キャンバス	武田光司コレクション寄贈
林 倭衛	机上のリンゴ	1918(大正7)	油彩・板	
恩地 孝四郎	黒い机	1922(大正11)	油彩・キャンバス	
山口 薫	静物	1926(大正15)頃	油彩・キャンバス	
熊岡 美彦	菊と檸檬	1922(大正11)	油彩・キャンバス	
中村 彝	朝顔	1923(大正12)	油彩・キャンバス	
稲垣 仲静	鳴く猫	1921(大正10)頃	絹本着色	丹尾安典コレクション寄贈
川島 理一郎	コルシカ島サゴーン風景	1921(大正10)	油彩・キャンバス	
上野山 清貢	サイパンにて	1925(大正14)頃	油彩・キャンバス	
辻 永	ブルーデュにて	1920(大正9)	油彩・キャンバス	
矢崎 千代二	モンマルトル	1921～26(大正10～15)	パステル・紙	
牧野 義雄	セント・ジョン・ザ・ディヴァイン大聖堂	1924(大正13)	水彩・紙	
和田 英作	(大正天皇・皇后)	1918(大正7)	石版・紙	丹尾安典コレクション寄贈
和田 英作	鳩	1916(大正5)	石版・紙	丹尾安典コレクション寄贈
和田 英作	朝晴雪	1919(大正8)	石版・紙	丹尾安典コレクション寄贈
陽 咸二	三人の労働者	1923(大正12)	水彩、鉛筆・紙	
川上 澄生	賭博者(『HANGA 第五輯』より)	1925(大正14)	木版・紙/ポートフォリオ	
塚本 繁	反逆者(『HANGA 第三輯』より)	1924(大正13)	木版・紙/ポートフォリオ	
上阪 雅人	復興の銀座街(『HANGA 第二輯』より)	1924(大正13)	木版・紙/ポートフォリオ	

展示室3 郡山の彫刻家

大正から昭和戦前期にかけて官展を中心に活躍した木彫家・三木宗策。その門下には、近年まで長く制作を続けた佐藤静司や三木の元で培った仏像制作に注力した本田晶彦がいました。また、抽象表現を取り入れた塑造の制作を続けた湖南出身の三坂耿一郎など、郡山の彫刻家たちをご紹介します。市内の公共施設や公園などで、ブロンズのモニュメントの作者として、名前を見る彫刻家もいるでしょう。

今回はまた、現在、市内で活動している作家・大石尚と黒沼令の作品を特別出品として展示します。こうした彫刻家が生まれ、活動することによって築かれた道には、これからも新しい作家が続くことでしょう。

作者名	作品名	制作年	技法・材質		
三坂 耿一郎	まとう	1967(昭和42)	ブロンズ		
三坂 耿一郎	女童(めわらべ)	1974(昭和49)	ブロンズ		
三木 宗策	閑日	1916(大正5)	木彫、彩色	伊藤和氏所蔵	特別出品
三木 宗策	威容抱慈(坂上田村麻呂像)	1924(大正13)	木彫		
三木 宗策	春	1929(昭和4)頃	木彫、彩色	山口紀夫氏寄贈	
三木 宗策	浅香山の采女		木彫、彩色	寄託作品	
本田 晶彦	少年	1960(昭和35)	木彫	本田悦久氏寄贈	
本田 晶彦	トルソ	1967(昭和42)	木彫	本田悦久氏寄贈	
佐藤 静司	獺	1936(昭和11)	木彫		
佐藤 静司	早春	1940(昭和15)	木彫、彩色	寄託作品	
佐藤 静司	合掌	1986(昭和61)	木彫		
佐藤 静司	フルーティスト	2000(平成12)	木彫	佐藤静司氏寄贈	
大石 尚	三角形の構図(ピアニスト)	2021(令和3)	木彫	作家蔵	特別出品
黒沼 令	画家-I	2020(令和2)	木彫・彩色	作家蔵	特別出品

展示室4-① 版画の技法と表現

「版画」と一口に言っても、その種類はさまざまです。技法によって道具や手順が大きく異なり、摺ったときに表れる線や濃淡もそれぞれに特徴があります。今回は、多様な版画技法のうち、木口木版と銅版の主要な技法をご覧ください。

木版のなかでも木口木版は、堅い木材の木口面を版とするため、繊細な線を刻むことが可能です。描画したい部分を残して彫ることで版を作る「凸版」とよばれるこの技法に対し、銅版は描画したい部分を彫る「凹版」という技法で、版面を直接彫る方法のほか、酸による腐蝕を利用して彫る方法もあります。

緻密な線による階調が美しい作品、柔和で奥深い明暗表現、手描きのような生き生きとした描線など、版画の豊かな造形世界をお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
●木口木版			
トマス・ビューイック	野生の牡牛	1789	木口木版・紙
トマス・ビューイック	『四足獣概説』	1790	木口木版・紙／本
ディエル兄弟	『イギリス風景画集』	1863	木口木版・紙／本
ロバート・ギビングス	L. ポウイス『生命の栄光』	1934	木口木版・紙／本
柄澤 齊	『死と変容 夜』より "すべてを一つの夜が待つ 死を想え"	1988(昭和63)	木口木版・紙／ポートフォリオ
柄澤 齊	『死と変容 夜』より "円形劇場"	1988(昭和63)	木口木版・紙／ポートフォリオ
日和崎 尊夫	『鑿 III』(形象ギャラリー)	1981(昭和56)	木口木版・紙／本
●エングレーヴィング			
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ドーバー海峡	1827	エッチング、ライン・エングレーヴィング・紙
トマス・ガーティン	『リンカーン州の名所風景』	1797-1801	ライン・エングレーヴィング・紙／本
●メゾチント			
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ハンバー川の河口	1826	メゾチント・紙
ジョン・コンスタブル	『イングランドの風景』より "ハドリー大聖堂"	1830-2	メゾチント・紙／ポートフォリオ
ジョン・マーティン	墜落した天使たちを呼び覚ますサタン	1825	メゾチント・紙
長谷川 潔	シャトー・アルヌーの寺院	1932(昭和7)	メゾチント・紙
浜口 陽三	黒いさくらんぼ	1963(昭和38)	メゾチント・紙
安部 直人	ほおずき VI	2000(平成12)	エッチング、メゾチント・紙
岩谷 徹	赤い魚 (大)	1976(昭和51)	メゾチント・紙
●ドライポイント			
サー・フランシス・セイモア・ヘイドン	シア・ミル池 No.2	1860 以後	エッチング、ドライポイント・紙
デイヴィッド・ヤング・カメロン	シエナ	1900	エッチング、ドライポイント・紙
●エッチング			
サミュエル・パーマー	昇る月 (イングランドの田園詩)	1857	エッチング・紙
ウォルター・グリーヴズ	デューク通り、チェルシー	1860	エッチング・紙
ミューアヘッド・ボーン	サンティ・アポストリ運河と橋、ヴェニス	1916-24	エッチング・紙
ジョゼフ・ベネル	ベッセマーへ向かって	1908	エッチング・紙
駒井 哲郎	墓 (「マルドロオルの歌」)	1956(昭和31)	エッチング・紙
草間 彌生	かぼちゃ	1985(昭和60)	エッチング・紙
●アクアチント			
ポール・サンドビー	カーナーヴォン城	1776	アクアチント、エッチング・紙
トマス・ガーティン	テュイルリーの眺め		エッチング、アクアチント・紙

展示室4-② 工芸・デザイン・素材

工芸は美的価値のみならず、実用的価値を兼ねそなえています。その制作過程においては、素材の選択が美と用の双方の要件を満たす必要があります、これが作品の造形に大きな役割を果たします。たとえば、皿の場合、ガラスや金属、陶磁器などの素材の違いによって、形状はもとより、視覚的な印象や手触りが変化します。

この展示では、素材とデザインがどのように共鳴しあい、工芸作品の創出に寄与しているのかを探求します。素材の物理的特性と芸術家の創造性が、どのように融合しているのかを追究することによって、工芸の深い魅力に触れる機会となれば幸いです。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
遠藤 兆映	花王清風	1993 (平成 5)	銀	遠藤兆映氏寄贈
遠藤 兆映	風かおる	1996 (平成 8)	銀	遠藤兆映氏寄贈
遠藤 兆映	香器・樹海	1988 (昭和 63)	銀	遠藤兆映氏寄贈
折笠 兆春	朱い盛器	1985 (昭和 60)	乾漆	折笠兆春氏寄贈
折笠 兆春	永遠の空	1995 (平成 7)	乾漆	折笠兆春氏寄贈
佐藤 潤四郎	花器・アダムとイヴ		ガラス/宙吹・サンドブラスト	
佐藤 潤四郎	ブルー花器		ガラス/宙吹	
佐藤 潤四郎	花器・何をしようか	1986 (昭和 61)	ガラス/宙吹	
佐藤 潤四郎	花器 (カレット入り)		ガラス/宙吹・カレット封入	
クリストファー・ドレッサー	蓋つきスープ入れ		金属、電気メッキ、黒檀把手	
クリストファー・ドレッサー	三角型薬味入れセット		ガラス、金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック (青海波)	1879 ~ 82 頃	金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	ナイフとフォークのセット		金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	銀製ティール・セット	1885	銀、象牙、金メッキ	
クリストファー・ドレッサー	橋型二重注口人面壺	1879 ~ 82 頃	陶器	
クリストファー・ドレッサー	刻文舟形容器	1892 ~ 95 頃	陶器	
クリストファー・ドレッサー	色絵金彩竹梅文水差		磁器	
田村 耕一	野草図楕円鉢	1963 (昭和 38) 頃	陶器	麻山富義氏寄贈
仁阿弥 道八	刷毛目鉢	19 世紀 (江戸時代)	陶器	渡辺宗侑氏寄贈
浜田 庄司	黒釉錆流描角皿		陶器	麻山富義氏寄贈
佐藤 潤四郎	鳥文大皿		陶器	田淵十一氏寄贈

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
●1階				
アントニー・ゴームリー	領域 XIII	2000	ステンレス・スチール棒	
アントニー・ゴームリー	量子雲 XXIII	2000	ステンレス・スチール棒	
笠置 季男	躍進	1958 (昭和 33)	セメント	
●2階展示ロビー				
北村 四海	井氷鹿の娘	1917 (大正 6)	大理石	
細川 宗英	道元	1988 (昭和 63)	ブロンズ	
柳原 義達	女の首	1958 (昭和 33)	ブロンズ	
堀内 正和	顔	1955 (昭和 30)	鉄、セメント	
佐藤 静司	遙か	1989 (平成元)	ブロンズ	宇野洋子氏寄贈
●前庭				
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	